

不登校からデイケア通所を通し 大学受験に挑戦

はじめに

広汎性発達障害は、コミュニケーションや社会性に障害があり、社会不適応を起こしやすい。更に引きこもりやうつといった二次障害から受診に繋がる 경우가少なくない。

今回、広汎性発達障害が背景にある不登校症例の経過を報告する。

その症例が、大学進学を希望し、受験に挑戦した経過および支援のあり方について検討したい。

事例紹介

- 男子高校生
- 広汎性発達障害、不登校
- 両親、弟と同居
- 小学校の時より登校班になじめず不登校となる。
その後、登校、不登校を繰り返す
- 小学6年時より個別支援学級だった
- 中学時は不登校になることなく、高校に進学

現病歴

- 高校のクラスTシャツを決める際、自分の意向通りにならず、暴れたり、固まって動けなくなった。このことがきっかけとなりX-1年6月停学処分となる。
- 停学中に引きこもり、昼夜逆転となり家族に連れられ、X年7月初診
- X年8月入院し内観療法等約1ヶ月の入院治療を受ける
- 野球がしたいとのことで思春期デイケアのソフトボールプログラムに参加目的で試験通所を始める。
- 退院後停学中のため、「生活習慣を整える」という目的でX年10月デイケア通所を開始する。

通所開始時の様子・課題

生活全般

- 停学中で、日中活動の場がない
- 昼夜逆転し生活リズムが不規則

コミュニケーション

- 丁寧語が使えない
- 声かけに応じない
- お礼や謝罪が言えない
- 場面に合わせた声量の調整が難しい
- 集団に馴染めない

目標・進路について

- 現実検討能力に欠ける
→現実的な目標、計画を立てられない
(例:将来はプロ野球選手になる等)
- 停学中であるが、復学の見込みがなく、本人に合った学校への転校を進めるが拒否
(デイケア通学中に退学となる)
- 祖父母の影響で農業をしたいと話す一方、大学受験も考えている

デイケアでの支援経過

生活全般

- デイケアを日中活動の場として活用してもらおう
よう週5日継続して通所

コミュニケーション

- 麻雀、ソフトボール等、本人の関心のあるプログラムを通して交流を図る
- 麻雀では、先輩通所者に点数計算の仕方を教えてもらう
- ソフトボールでは、「キャプテン」となり、他の通所者に教えるなどの役割を担う
- 他の通所者に言葉使い等を教えてもらう

目標・進路に対する支援経過

【現実的な進路指導】

- 主治医、家族を含めて進路指導を繰り返す
- 高校卒業程度認定試験の取得を目指す
その結果⇒「**大学進学し、農業の知識を学んでから
就農したい**」という目標に設定

デイケアプログラムの他に・・・

- 院内学校(病棟の学習指導)に参加
- 空き時間に自習するなど勉強習慣の形成
- お礼状の書き方、電話のかけ方など必要なマナーの習得指導など支援

結果

目標・進路

- 大学受験は残念ながら不合格
- 高校卒業程度認定試験は取得

コミュニケーション

- 他通所者との交流が増え、仲間ができた
- 大学生活を意識しコミュニケーションプログラムにも参加
- お礼状を書いたり、分からないことを電話で聞いたり出来るようになった

考察と今後の課題

- 興味や関心あること(ソフトボール、麻雀)を利用し、他者交流を拡大させ、その中でコミュニケーションを身につけることができたと考えられる
- 本人の目標を現実に近づけられるよう支援したことで、モチベーションを維持し、努力が継続できたと考えられる
- その一方で、広汎性発達障害に由来する社交性やコミュニケーションの障害に対しては、今後も根気強い支援が必要と考えられる

おわりに

- 広汎性発達障害のデイケアの支援として…
 - デイケア導入時に参加目的を確立。プログラムへの参加を促し役割を与えることで、所属意識が生まれ、自信の回復を図り集団に馴染めるような工夫が大切である¹⁾
- 今回の事例を通して…
 - 障害特性を理解し、曖昧な表現を避けたり、気持ちを具体的に伝えるといった工夫をすることで、コミュニケーション能力が改善され、デイケアが有益な場となることを学んだ

参考文献

- 1) 染谷かなえ 新・精神科デイケアQ&A
日本デイケア学会編集 中央法規 2016 P226-229



ご清聴ありがとうございました